

山梨学院大学の初年次教育の取り組み —成長を促す「出会い」の創出プログラム—

青山貴子
山梨学院大学

皆さん、こんにちは。今回、このような形でウェルビーイングをテーマとしてお話しする機会がいただけたことに本当に感謝しております。昨日からいろいろな発表を拝見する中で、本当に同じ課題感で取り組んでいらっしゃる大学が多いなと感じていますので、ぜひこの2時間の枠が皆様にとって少しでもお役に立てる時間になればと考えています。本日は、「成長を促す出会いの創出プログラム」として本学で行っている初年次教育の取り組みについてご紹介したいと考えています。

まずはじめに、山梨学院大学の概要についてですが、本学は全学で約4,000人程度の学生数、小規模と中規模の中間ぐらいの地方私大であります。法学部・経営学部・スポーツ科学部・健康栄養学部、そして国際リベラルアーツ学部という五つの学部があります。教育目標としては「たくましく生きる力を育てる」ということで、21世紀を生きていく学生らに力を身に付けさせてあげたいと考えています。本法人は2021年に法人名を山梨学院からC2C Global Education Japanに変更しました。現在日本だけではなく、インドやベトナムやアメリカなどで保育および初等教育を中心に海外展開にチャレンジをしています。ということで、山梨学院大学はC2C Global Educationの日本部門という位置付けになります。

法人名の変更に伴いまして、改めてこの今の時代に日本で、山梨で、山梨学院大学という大学が存在することの意味を問い直す機会を持ちました。C2Cというのは少し変わった法人名ですが、ここには二つの意味が込められています。一つ目の意味はCuriosity to Creativityで、創造性、新しい価値を生み出すことを楽しむという心持ちを示しています。もう一つの意味はChallenge to Changeということで、これからの激しい時代をみずから変えていくことに挑戦するマインドを示しています。この二つのマインドを育てる学校であるとともに、私たち自身がそれを体現する組織でありたいという願いが込められています。では、山梨学院大学にとってCuriosity to Creativity、Challenge to Changeとは何をする事なのか、を考えてきました。

私が昨年、学長に就任した際には、「五つのアクションプラン」を通じて、「理想の未来をつくる人材」、すなわちC2C哲学を体現する人材を育てていきたいということを示しました。今日は、この「五つのアクションプラン」の一つである「社会接続型カリキュラムの充実」の一例についてお話します。「社会接続型カリキュラム」では、学生中心であるということが重要です。まず学生が真ん中にいて、そこに円環のような形でカリキュラムが並んでいるのが特徴です。近年は本当に多様な学生が入ってくるようになってまいりました

ので、まず一つ目に、カリキュラムの運用も柔軟にして、できるだけ彼らが自らの関心と興味に基づいて履修ができるように組み直し、二つ目に、学部専門以外のいわゆるジェネラルな能力を育てるスキル教育を充実させています。

一つ目について、このシンポジウムの演題には「成長を促す「出会い」の創出プログラム」とありますが、本学では初年次教育のみならずキャンパス全体で出会いを生み出したと考えています。例えば「多様性あふれる他者との出会い」ということで、留学生の比率を2030年までに3割、そしてバイリンガルの教職員割合も3割、そして開講科目における多言語開講も3割にしようということでキャンパス環境の多様化を進めているところでもあります。多様な人が集うことで、自然にさまざまな出会いと刺激と学びが生まれていくと考えています。

そして二つ目についてですが、たぶん皆さまが山梨学院大学でまず想起するのはスポーツだと思うのですが、本学ではカレッジスポーツを通じて、切磋琢磨する仲間たちとの出会いを通じた全人的な学生の成長というのを充実させていきたいと考えています。そして、これも各大学で取り組んでおられるかとは思いますが、キャンパス外に飛び出して、いかにリアルな学びに出会わせていくか、出会ってもらおうかということにも取り組んでいるところでもあります。

初年次教育における出会いというテーマで申しますと、これまで私が学生と関わって来る中で、入学段階で漠然とした不安や自信のなさを抱えている学生が増えてきているなど感じていました。こちらについては本学のホームページの「学長インタビュー」をぜひご覧いただきたいですが、必ずしも第1志望で入ってきていない学生だとか、入ってきた後にここでうまくやっていけるかが不安だと感じている学生というのを目にするにあたり、教員からするとどの学生もそもそも素晴らしい魅力を備えているにも関わらず、本人はその魅力が自分自身の中で自信につながってない、十数年のこれまでの暮らしの中でいろいろなものをこじらせている学生が多いなど感じ、このような状況では、まずは学生の「解きほぐし」から始めないといけない、そして、本学はここで掲げている「ウェルビーイング」の実現を目指す大学になりたいということを強く感じるようになりました。

そして具体的に調べている中で今回のSEL (Social Emotional Learning) というコンセプトに出会いまして、これをどうにか本学に取り入れられないか模索する中で、今日ご登壇いただく下向さんに出会って研修をしていただいて「ウェルビーイング」という科目設置につなげたという経緯があります。SELについては後ほど改めて下向さんからのご講演もあるかと思いますが、自分自身を大事にできる、Self-Awareness, Self-Management, そして自分を大事に思える、価値ある存在と思えるところから、同じように価値ある他者との関係をいかにうまくつくっていくか、という考え方が中核にあります。そして、ひいては社会全体の中で責任のある意思決定ができ、主体的に社会と関わる力を育むことが目指されています。特に自分自身への自信、自分自身の価値への気づき、自分自身の価値を言語化できる、そういった力をまずは1,2年生の段階で育てたいということで「ウェルビーイング」科目を設定したわけです。先ほどご紹介した「社会接続カリキュラム」において「ウェルビーイング」の授業はヒューマンスキル科目に位置付けられているんですけれども、現在、少しずつクラスを増やしているという段階です。私が現在感じているのは、ヒューマンスキルの育成は一つの授業の中で完結するものではなくて、いろいろなところ

にもちりばめていく必要があると考えています。これは下向さんが研修当初、「授業だけでなくキャンパス全体でそういった学生のウェルビーイングを高める雰囲気があることが大事です」というふうにおっしゃってくださって、授業が軌道に乗ってきた現在、ようやくこのステップに足を踏み入れることができるのかなと感じているところです。

以上、駆け足になりましたが、全ての学生が自信を持って社会に踏み出していくために、SELに基づいた「ウェルビーイング教育」を本学では展開しているところです。簡単ではありますが、私からの話は以上となります。ありがとうございました。



1

山梨学院大学の概要

1946年設立
所在地：山梨県甲府市
入学定員：860名
5学部5学科

教育理念
広い国際的視野を持ち
実践的な知識と技能を備え
創造力と行動力を発揮して
理想の未来を創る人材を育成する

教育目標
たくましく生きる力を育てる



2

2021年に法人名を変更

学校法人 山梨学院



学校法人 C2C Global Education Japan

C2C
Global Education



3

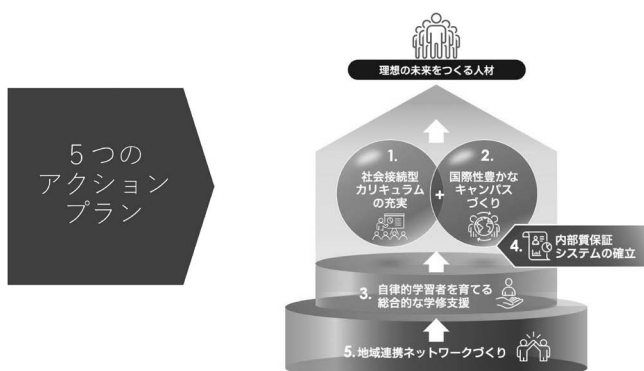
Curiosity to Creativity
個性と能力を最大限に発揮して新しい価値を創出することを楽しむ

新しい価値を創出する
創造性(Creativity)
人間が創造性を発揮するために必須の資質
好奇心(Curiosity)

Challenge to Change
時代の変化に適応して自ら実践して未来社会を変えていくことを楽しむ

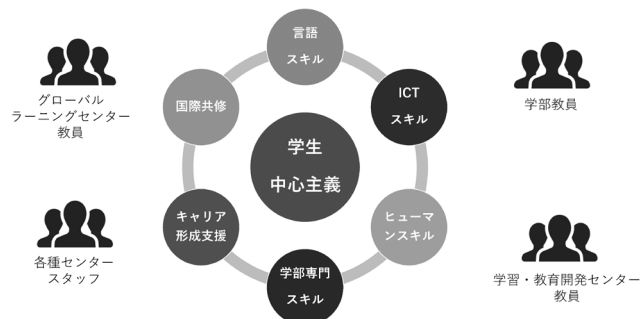
変化に適応して未来を変革する
変革(Change)
新しい変化に立ち向かい未来を変えていくこととする
勇気(Challenge)

4



5

「学生中心主義」による社会接続型カリキュラム



6



7



8



9

初年次教育における「出会い」の創出



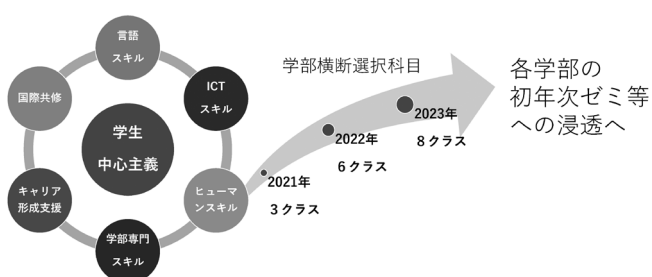
背景 学生たちのメンタリティ（漠然とした不安、自信のなさ）

方針 ひとりひとりの学生を解きほぐし
「ウェルビーイング実現」を目指す大学へ

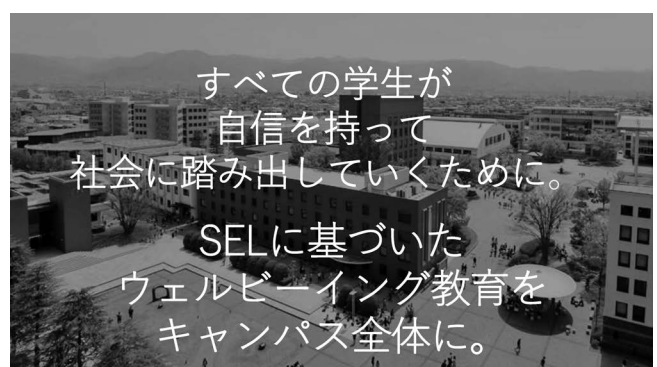
方策 SEL（Social Emotional Learning）
に基づく「価値ある自分」と「大切に思える他者」に出会う
プログラムとして、授業「ウェルビーイング」を設置

10

自分と他者の尊重に目を向ける授業 「ウェルビーイング」の展開



11



12